

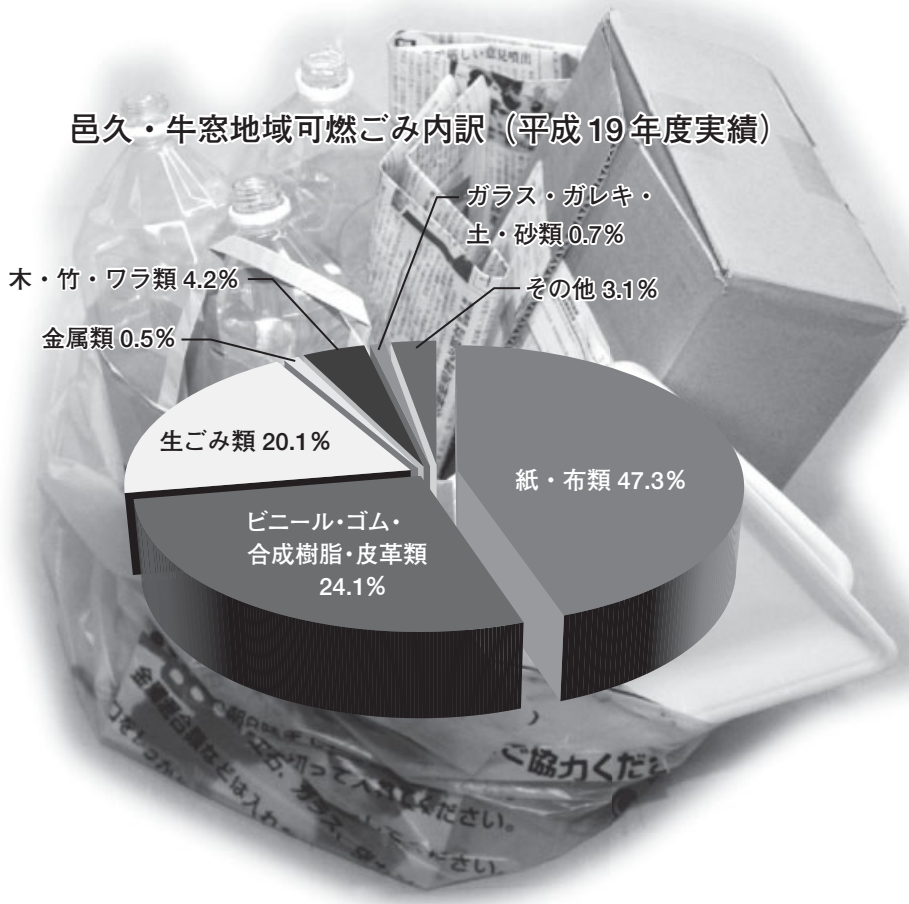
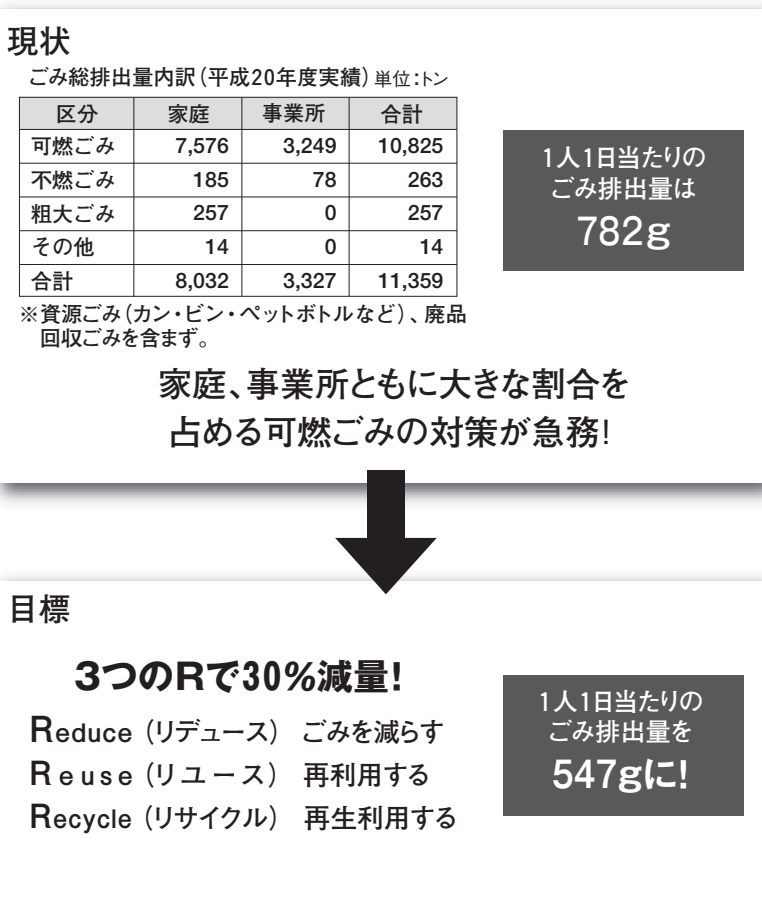
## 目標は30%減量!

年間のごみ量は減少傾向にありますが、決して安心はできません。なぜなら、区内処理を継続するためには、施設の運営経費が増大し、結果として、市民の皆さん

に負担が及ぶからです。ごみ処理に掛かる費用を軽減するためには、ごみそのものを減らす取り組みこそがより大切になってきます。市では、平成20年度に比べごみの量を30%減量、市民一人あたりの一日の排出量では、782gから

ムを547グラムに抑えるとの目標を立てました。この数値は、達成可能な最大値の目標です。「捨てればごみ、分別すれば資源」よく耳にする言葉ですが、実際の生活の中から出るごみの中には、まだまだ分別すれば資源化できるものがたくさんあります。

左の円グラフは、平成19年度における邑久・牛窓地域の可燃ごみの内訳を示したものです。長船地域についてもほぼ同様の割合です。「可燃ごみにはさまざまなものがあります、全体の約半分を紙・布類が占めています。この中には再利用できる「ざつ紙」が多数混



在していることから、分別することによりかなりごみを減量化することが期待できます。

また、生ごみについても、昔に比べ、食べ残しはもったいないという意識が希薄になったことや、処理に対する知識不足から、まだまだ未活用が続いています。

生ごみ処理機などの導入で、各家庭で生ごみを有効活用できるような循環型社会を目指します。

## まず市役所から

ごみの減量化を進めるに当たり、市では今後各種施策を進めていきます。

まずは市が率先して取り組む必要があることから、市役所内に職員をメンバーとした「ごみ30%減量化作戦プロジェクトチーム戦略会議」を昨年11月に発足しました。岡山大学の藤原健史教授を戦略アドバイザーに迎え、戦略会議を開催し、30%減量に向けた多方面からの政策立案をしています。

また、減量の実行部隊として、副市長を隊長として、各課・各施

設40人の隊員たちで「チームもってえねんジャー」を結成。それぞれの職場で、次の項目について、実行しています。

### ▽リサイクルの徹底

今まで焼却していた雑誌・ざつ紙類、シュレッダーごみを資源化します。コピー用紙の両面利用などを徹底し、ざつ紙については、各課、施設に回収箱を設置し、集積してから業者へ引き渡します。

### ▽生ごみの減量化

市役所内に電気を使わず消化酵素で生ごみを分解できる新方式の「くうたくん」を設置し、茶殻や弁当の残りを処理します。

## 市民みんなで達成を目指す

4月からは、市民・事業者の皆さんの協力を得ながら、より一層のごみ減量化に向け、各種施策を推進していくこととしています。詳細は本紙4月号からご紹介して行く予定ですが、家庭でできるちょっとしたエコ生活についてお話しします。



市役所給湯室に設置された生ゴミ処理装置「くうたくん」職員も愛情をもってまぜまぜ。分解を進めます。

### ①とにかく分別!

「分別なんて面倒だし、ごみで捨てちゃえ」、なんてことありませんか。捨てる前にもう一度確認してください。

### ②お買い物には、マイバッグ

お買い物には今や必需品の感があるマイバッグ。レジで見掛けるのも当たり前になりました。最近ではおしゃれなデザインのものも増えています。

### ③マイ箸を持って出かけ

ごみ、CO2削減というだけでなく、マイ箸かつこいいですよ。一度使っただけでポイ捨てなんて、かつこ悪くないですか。お

出かけの際には常に持ち歩くようにしましょう。

### ④生ごみは大切な肥料

畑(空き地)がある人は、家庭からの生ごみは堆肥化し、野菜・果樹の肥料にしましょう。臭いもしないし、肥料としても優秀。ごみの減量化にもつながります。

## 「ごみダイエット瀬戸内」を宣言!

市では、ごみ減量化を広く市民の皆さんにPRするためにキャッチフレーズの市民投票を行いました。その結果、投票総数368票の中から選ばれたのは、「ごみダイエット瀬戸内」。今後さまざまな機会を通じて活用し、啓発に努めていきます。

人が生活していると必ず出てくるものの一つがごみです。それをいかに少なくするか、ごみを出さない生活にするにはどうするか、出たごみを生かす方法はないかなど、いろいろな知恵を出し合っ、みんなでごみ30%減量を実現していきましょう。